

外郭団体評価調書【公益・一般法人用】

1. 基本情報

平成23年7月1日現在

団体名	公益財団法人 會津八一記念館		
所在地	新潟市中央区西船見町5932番地561		
代表者(職・氏名) (所属・職)	理事長 高橋 道映	電話番号	025-222-7612
		ホームページ	http://aizuyaichi.or.jp/
市所管課	文化政策課	電子メール	
基本財産 (基本金)	198,446 千円	設立年月日	昭和47年 5月 8日
出資者	氏名・団体等名称	出資等額	出資等比率
	新潟市	100,000 千円	50.4 %
	株式会社新潟日報社	2,400 千円	1.2 %
	株式会社新潟放送	2,400 千円	1.2 %
	株式会社本間組	2,400 千円	1.2 %
	株式会社福田組	2,400 千円	1.2 %
	その他	88,846 千円	44.8 %
設立目的	會津八一の遺墨・遺品・著書をはじめ會津八一に関する資料を調査研究し、文学・芸術など学芸に残した業績を伝え、広く後学の研究と鑑賞に供し、教育・学術の交流に資すること。		
経営理念 経営方針	會津八一に関する調査研究、諸展覽の開催、諸種講演会、研究会の開催および印刷物の刊行、記念館の管理、その他法人の目的を達成するために必要な事業を遂行する。		

2. 主要事業

事業名			事業概要				
會津八一記念館管理運営事業			會津八一の業績を顕彰するとともに、市民文化の向上に資することを目的に、會津八一の作品、遺品等を収集し、保管し、及び展示(業務仕様書より)する。				
事業区分	主体区分	収支区分	単位	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度(予算)
公益事業	受託事業	支出額	千円	30,313	33,449	31,879	30,782
活動指標・成果目標			単位	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
年間入館者数・入館料		計画	人・円	7,111	6,987	7,064	7,900
		実績		2,369,480	2,361,440	2,506,800	

事業名			事業概要				
特別展自主事業			毎年度受託金110万円に自主財源を補てんし、會津八一の足跡を幅広く紹介するため、他館や個人所蔵の作品を借用するなどして、多角的に紹介。図録も作成している。23年度は受託金予算が30万円に減額されたため、自主財源を500万円計上した。				
事業区分	主体区分	収支区分	単位	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度(予算)
公益事業	自主事業	支出額	千円	5,235	3,323	3,134	5,300
活動指標・成果目標			単位	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
入館者数		計画	人				3,000
		実績		2,774	2,198	2,216	

事業名			事業概要				
文芸講演会事業			會津八一の学芸の世界について、県内外の研究者、芸術家、俳優らにより多角的に講演を開催。仏像展実行委員会の企画の中核だった当館は、神林恒道館長の講演会を軸にしながら、奈良の高僧たちの講演会も主導。主催・共催・出張も含めた講演回数は22年度21回開催し、八一の普及に貢献した。				
事業区分	主体区分	収支区分	単位	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度(予算)
公益事業	自主事業	支出額	千円	619	388	964	350
活動指標・成果目標			単位	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
開催数		計画	契約				10
		実績		11	6	21	
聴講者数		計画	契約				1,520
		実績		1,211	918	4,044	

事業名			事業概要				
販売事業			會津八一の作品の複製、歌集、研究書のほかレターセット、絵はがきなどの関連グッズの販売を通じて記念館の思い出とし、リピーターを拡大させる一方、財団の自主財源を確保している。				
事業区分	主体区分	収支区分	単位	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度(予算)
収益事業	自主事業	支出額	千円	2,048	1,848	5,115	2,500
活動指標・成果目標			単位	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
年間販売額		計画	円	3,500	2,200	4,000	3,200
		実績		3,205	2,243	6,961	

事業名			事業概要				
普及活動事業			會津八一の知名度の復興のため、毎年「會津八一の歌を映す」写真コンテストを開催し、歌と映像とを融合する新しい芸術分野を開拓中。23年度は第5回を開催する。ほかに、学芸員の出前講座を活発化させている。				
事業区分	主体区分	収支区分	単位	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度(予算)
公益事業	自主事業	支出額	千円	2,289	3,152	6,320	2,800
活動指標・成果目標			単位	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
「八一の歌を映す」写真コンテスト応募点数		計画	点				90
		実績		57	79	63	
学芸員の出前講座回数		計画	回				
		実績		9	5	13	

3. 組織等の状況

(1) 役職員数の状況

(単位：人)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
役員数	9	9	9	10
常勤	0	0	0	1
市派遣				
市職員OB				
プロパー役員		0		1
他団体からの派遣				
非常勤	9	9	9	9
市兼任	3	3	3	3
市職員OB				
他団体兼任	6	6	6	5
その他				1
職員数	4	4	5	3
常勤	2	2	3	3
市派遣				
市職員OB				
プロパー職員	2	2	3	3
他団体からの派遣				
非常勤	2	2	2	0
市兼任				
市職員OB				
他団体兼任				
その他臨時・嘱託等	2	2	2	
見直し等の取組み				

(2) 職員の状況(市派遣職員を除く。)

(単位：人)

		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
職員の状況	管理職	0	0	0	0
	一般職	2	2	3	3
	合計	2	2	3	3
年齢構成	20代以下	1	1	0	0
	30代	1	1	2	2
	40代	0	0	0	0
	50代	0	0	1	1
	60代以上	0	0	0	0
	合計	2	2	3	3

(3) 役員報酬・職員給与等の状況

(決算 単位：千円)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度予算
報酬・給与等	14,784	15,018	17,113	17,636
内 市職員分	0	0	0	0
役員	0	0	0	5,149
常勤				3,049
内 市職員分				
非常勤				2,100
内 市職員分				
職員	14,784	15,018	17,113	12,487
常勤	7,610	7,986	11,964	12,487
内 市職員分				
非常勤	7,174	7,032	5,149	
内 市職員分				
平均年収(市職員を除く。)				
常勤役員				
常勤職員	3,805	3,993	3,988	
見直し等の取り組み				

(4) 給与等の適正化の状況(市派遣職員を除く。)

現在の給与体系		今後の見直し予定	
	団体独自の給与体系	有	予定時期 年度～
	市の給与体系を準用	無	
	その他〔 〕	その他〔 〕	

4. 財務の状況

(1) 正味財産増減計算書

(決算 単位：千円)

		平成20年度	平成21年度	平成22年度
一般正味財産増減の部	経常収益	43,929	46,521	56,282
	基本財産運用益	3,168	3,347	3,346
	特定資産運用益			
	受取会費			
	事業収益	37,364	39,039	48,745
	自主事業収益	7,051	5,590	16,866
	受託事業収益	30,313	33,449	31,879
	受取補助金等・負担金	300	300	
	その他経常収益	3,097	3,835	4,191
	経常費用	43,268	45,103	53,974
	事業費	40,468	42,098	48,283
	公益目的事業費	40,468	42,098	48,283
	収益目的事業費			
	(自主事業費)	10,074	8,649	15,503
	(受託事業費)	30,394	33,449	32,780
	法人会計			
	管理費	2,800	3,005	5,691
	評価損益等調整前当期経常増減額	661	1,418	2,308
	評価損益等	0	0	0
	基本財産評価損益等			
特定資産評価損益等				
投資有価証券評価損益等				
当期経常増減額	661	1,418	2,308	
経常外収益	243	29		
経常外費用	0			
当期経常外増減額	243	29	0	
当期一般正味財産増減額	904	1,447	2,308	
一般正味財産期首残高	30,339	31,243	32,690	
一般正味財産期末残高	31,243	32,690	34,998	
指定正味財産増減の部	受取補助金等・負担金	0	0	
	その他	3,168	3,348	3,346
	基本財産評価損益	120	18	18
	特定財産評価損益			
	一般正味財産への振替額	3,168	3,348	3,346
	当期指定正味財産増減額	120	18	18
	指定正味財産期首残高	198,530	198,410	198,428
指定正味財産期末残高	198,410	198,428	198,446	
基金増減の部	基金受入額			
	基金返還額			
	当期基金増減額	0	0	0
	基金期首残高			
	基金期末残高	0	0	0
正味財産期末残高		229,653	231,118	233,444

(参考)

(決算 単位：千円)

(別掲)人件費	16,589	16,709	19,551
役員分			
職員分	16,589	16,709	19,551

(2) 貸借対照表

(決算 単位：千円)

		平成20年度	平成21年度	平成22年度
資産の部	資産の部合計	235,586	236,813	238,050
	流動資産	13,998	15,226	15,802
	現金預金	8,936	9,485	8,744
	未収金	80		2
	有価証券			
	その他流動資産	4,982	5,741	7,056
	固定資産	221,588	221,587	222,248
	基本財産	198,410	198,428	198,446
	特定資産	21,605	21,648	22,047
	その他固定資産	1,573	1,511	1,755
	有形固定資産	1,050	1,050	1,362
無形固定資産	493	431	363	
その他投資等	30	30	30	
負債の部	負債の部合計	5,932	5,695	4,606
	流動負債	2,855	2,647	1,160
	短期借入金			
	その他流動負債	2,855	2,647	1,160
	固定負債	3,077	3,048	3,446
	長期借入金			
その他固定負債	3,077	3,048	3,446	
正味財産の部	正味財産の部合計	229,653	231,118	233,444
	基金	0	0	0
	(基本財産充当額)			
	(特定資産充当額)			
	指定正味財産	198,410	198,428	198,447
	うち補助金		0	
	(基本財産充当額)	198,410	198,428	198,446
	(特定資産充当額)			
	一般正味財産	31,243	32,690	34,997
	代替基金			
その他一般正味財産	31,243	32,690	34,997	
(基本財産充当額)				
(特定資産充当額)	21,605	21,648	22,046	
負債の部及び正味財産の部合計	235,585	236,813	238,050	

(3) 市財政支出等の状況

(決算 単位:千円)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度
市財政支出等の合計	30,393	33,530	31,959
補助金			0
事業費補助金			
運営費補助金			
設備投資に係る補助金			
負担金	80	80	80
交付金			
委託料	30,313	33,450	31,879
内 随意契約額	30,313	33,450	31,879
貸付金(期中借入額)			
出資・出捐金(追加額)			
その他			
貸付金残高			
損失補償契約に係る債務残高			
損失補償限度額			
債務保証に係る債務残高			
その他財政援助の状況 (税や使用料の減免, 建物の無償貸与等)			

随意契約額とは、市との一者随意契約による委託料及び非公募による指定管理者料をいう。

(市財政支出等がある場合) 目的, 内容, 必要性, 増減理由等

--

(4) 遊休財産の状況

(単位:千円)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度
純資産	229,653	231,118	233,444
公益目的保有財産			
公益目的事業を行う為に必要な収益事業等その他の業務又は活動の用に供する財産			
特定の財産の取得又は改良に充てるために保有する資金			
合理的に算出された必要限度額以内の特定費用準備資金			
拋出者の意思に従って, 使用・保有されている財産			
遊休財産額	229,653	231,118	233,444

5. 経営改善状況(評価指標)

評価基準に満たない場合は、網掛けセルに太字斜字体が表示されます。

(1) 財務の健全性

指標		平成20年度	平成21年度	平成22年度
経常損益		661 千円	1,418 千円	2,308 千円
自己資本比率	純資産	97.5 %	97.6 %	98.1 %
	純資産 + 負債			
流動比率	流動資産	490.3 %	575.2 %	1362.2 %
	流動負債			
固定長期適合率	固定資産	95.2 %	94.6 %	93.8 %
	固定負債 + 純資産			
借入金依存度	借入金	0.0 %	0.0 %	0.0 %
	資産の部合計			
剰余金(欠損金)		31,207 千円	32,672 千円	34,998 千円
公益目的事業比率	公益目的事業費	93.5 %	93.3 %	89.5 %
	公益・収益目的事業費 + 管理費			
遊休財産水準	公益目的事業費	0.18 %	0.18 %	0.21 %
	遊休財産額			
資金運用				
基本財産としての 有価証券の保有		有	→	運用方針を明文化し、それに従って運用している。 資金運用利率は市場金利の水準を確保している。 資金運用に関する情報収集に努めている。 元本割れのリスクはない。
		無		

(2) 団体の自立性

指標		平成20年度	平成21年度	平成22年度
市職員比率	常勤職員数(市職員)	0.0 %	0.0 %	0.0 %
	常勤職員数			
財政的依存度	市財政支出	68.8 %	72.0 %	56.8 %
	経常収益 + 経常外収益			
運営費補助比率	市運営費補助金	0.0 %	0.0 %	0.0 %
	経常収益 + 経常外収益			
随意契約比率	市随意契約額	100.0 %	100.0 %	100.0 %
	市委託料			

(3) 経営の効率性

指標		平成20年度	平成21年度	平成22年度
職員1人当たり 売上高	事業収益	9,341 千円	9,760 千円	9,749 千円
	職員数			
職員1人当たり 経常利益	事業活動収支差額	165 千円	355 千円	462 千円
	職員数			
管理費比率	管理費	6.5 %	6.7 %	10.5 %
	経常費用 + 経常外費用			
職員1人当たり 管理費	管理費	700 千円	751 千円	1,138 千円
	職員数			
人件費比率	人件費	37.6 %	35.89 %	34.7 %
	経常収益 + 経常外収益			
役員人件費比率	役員人件費	0.0 %	0.0 %	0.0 %
	人件費			

(4) 経営の適正性

中長期計画の策定状況	
有	計画名称〔 〕 計画期間 平成～ 平成 年度
概要・数値目標	
無	<p>未策定理由</p> <p>〔 展示計画では18年度以来、展示のビジュアル化、立体化を一貫して展開してきた。八一の生誕、没年の周年事業を意識した企画などは考えているが、現実には翌年度の企画づくりが精一杯で、3～5年先を見据えた企画立ては困難。 〕</p>

経理の適正化の取組み			
専門家による監事・監査役就任		専門家による会計指導	
有	就任時期 年度～ 依頼先職種〔 〕	有	依頼時期 平成18年度～ 依頼先職種〔 税理事務所 〕
無		無	

事務処理改善の取組み	
有	取組内容 年度～ 〔 〕
無	

人材育成の取組み	
有	取組内容 平成17年度～ 〔 北信越あるいは県博物館協会などの研修会に派遣。また冬季には、テーマ別に研修出張を実施 〕
無	

情報公開に関する規定の整備状況			
有	策定期間 平成12年度～ 規定名称 〔 公益財団法人會津八一記念館情報公開規定 〕	団体ホームページ掲載	定款等 年度～
			事業内容 年度～
			役員名簿 年度～
			役員報酬 年度～
			事業報告 年度～
			正味財産増減計算書 年度～
			貸借対照表 年度～
			事業計画書 年度～
無	未整備理由 〔 〕		予算概要 年度～

6. 経営改善状況(個別の取組み)

(1) 平成22年度評価調書【今後の取組み】の改善状況

今後の取組み					
		改善・対応済み	改善・対応中	検討中	実施しない
これまでの改善・対応内容		【改善済み】公益法人化のため人事体制や、寄付行為から定款への改善、及び諸規則の修正を完了し、平成22年12月22日に公益財団法人として登記し移行完了した。			
今後の改善・対応	今後の改善・対応方針等				
	実施事項	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	工程				

今後の取組み					
		改善・対応済み	改善・対応中	検討中	実施しない
これまでの改善・対応内容					
今後の改善・対応	今後の改善・対応方針等	【特別展の前売り実現】入館者の増加を図るために、一つの手法として特別展の前売り券を作り発売したい。特別展は指定管理料と自主財源で500万円ほどかけており、多くの人に見てもらうためには前売り券の営業が有効である。しかし、条例上、入場料が大人500円と固定されている。弾力的な価格設定が可能になるよう改善を図りたい。			
	実施事項	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	工程				

(2) 平成22年度評価調書【総合評価】における「今後の取組みに対する評価,改善指示事項の改善状況

今後の取組み					
		改善・対応済み	改善・対応中	検討中	実施しない
これまでの改善・対応内容					
今後の改善・対応	今後の改善・対応方針等				
	実施事項	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	工程				

7. 評価の結果

【団体の評価コメント】

財務の健全性	22年度は仏像展主催者の一員として出資し、約8割配当を受け、またグッズ類も販売増で大きな収入を得た。税理事務所が毎月監査しており、経理も健全。
団体の自立性	展示企画、文芸講演会、中宮寺の會津八一歌碑建立など対外的イベントも成功裏に進めてきている。しかし、記念館に講堂がないため、館外で講演会や講座を開催（22年度は主催・共催で聴講者3000人余）しており、入場者増に必ずしも結びつかない。また特別展では割安の前売り券発売は条例上困難となっている。
経営の効率性・適正性	最小限の人員で、展示、文芸講演会、イベント、グッズ開発と販売をしている。公益財団法人では、公益事業分野で経費以上に利益を出しては良くないとされている。収益目的事業では大いにもうけて、公益事業に投入せよとの考え方だが、會津八一関連のグッズ類で利益を大きく出すことは容易なことではない。
その他	
総括的な所見	
当財団理事及び評議員には新潟市の特別職や職員が参加し監視しておられる。指定管理者選考の際には実績及び今後の経営方針などを審査されている。行政経営課からは毎年、経営の効率性を審査されている。また、主務官庁の新潟県からは公益法人としての運営審査を受けている。当館はこれらに回答するために消耗させられている現状を改善していただきたい。	

【所管課による評価】

現状に対する評価	館内の展示のほか、講演会やアウトリーチ活動など、會津八一の業績を顕彰するという館の設置目的に沿った事業を積極的に行っている。特に、「奈良の古寺と仏像 會津八一のうたにのせて」全国巡回展を中心的に推進し、会場の県立近代美術館に13万人余の記録の入館者数を達成し、會津八一の学芸を全国に再認識させた。
課題及び改善すべき事柄	館の入館者数、使用料収入は昨年より増加しており、引き続き入館者増加に向け取り組んでいただきたい。
今後の指導方針	県内外からの幅広い誘客に繋がる事業展開を期待する。 経年劣化している施設の管理は引き続き協議していく。

【今後の取組み】

	24年中に「伝統の書、前衛の書、破格の書」をテーマにシンポジウムの開催に漕ぎつけたい。
	會津八一の大衆的浸透のため、八一を主人公にした物語を漫画で出版したい。

【総合評価】

概ね良好	改善の余地がある	改善が必要	抜本的な対応が必要
総括的な所見			
平成22年12月22日に公益財団法人へ移行した。 最低限の人員で、仏像展の開催やグッズ販売等、団体の認知度を上げるための積極的な活動が行われており、評価できる。			
今後の取組みに対する評価、改善指示事項			
既存事業の他にも、県内外からの幅広い誘客に繋がる新事業の展開などの目標ができており、実現へ向けての取組みを期待する。 人材育成の面においては、後継者を育成するための取組みを協議する必要がある。			

【総合評価を受けての団体としての決意】

<p>會津八一の学芸的業績を普及するためならば、どんな事業も実施するというのが運営にあたっての基本的姿勢である。中長期的な方針を策定すべきとの指摘もあり、基本姿勢をベースにして2012年度中に作成したい。</p> <p>また2013年度は日本美術教育学会、国際ソロプチミスト日本リジョン大会が新潟市で開催される情報もあり、これらに対応した企画も考えたい。当面まず展示方針はモノクロからカラフルに、平面主流を極力避けて立体物の導入を図る、他の著名な文人とのコラボレーションを一層推進する、テーマは分かりやすく親しみやすいものを組み入れてゆく - などである。</p> <p>来年度の講演会活動は有料の館長講座を中心に、館長と学芸員が一丸となって出前講演・講座を実行してきており、今後も実施してゆく。</p> <p>イベントでは写真コンテストが第5回まで数え、応募者も増加中。増加を促進するため写真展開催を一層県内外に拡大したい。</p> <p>学芸員の育成面では「書芸術の再生に向けて-書王国新潟からの発信」をテーマに新潟大学などと共同で文科省の科学研究費（申請中）対象研究を準備しており、ここで研究員補佐として一段と質的飛躍を図りたい。</p> <p>財政面では図録広告収入を100万円台（現在80万円）にまで高めること、グッズ類の販売促進に努力し、収入を拡大安定させたい。入館者の増加策にはバスの発着が不可欠で、所管課とともにバス停導入の運動をしたい。奈良の名刹とのネットワークはかなり強まっており、八一歌碑のある寺院を一堂に会した定例会議の実現を図り、奈良と新潟の文化交流を深めることで、八一を一層定着させたい。</p>
--